

○ 本校の概要

- 児童数355、学級数12、主幹教諭:2、主任教諭:8、主任養護教諭:1、教諭、10
- 学び方を学び、自立した学習者を育てるために、全教科等で「教えて考えさせる授業」による授業改善を図るとともに、「予習・授業・復習」の授業サイクルを確立し、家庭学習の充実を図る。
- サポートルーム拠点校としての強みを生かし、特別支援教育の充実を図る。
- 地域の人材・資源を効果的に活用し、教育活動の充実を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2	4: 70%以上	4: 70%以上	○授業以外に週1回程度、昼休みにイングリッシュカフェを行っている。参加率を高めるために担任からの伝達に加え、昇降口にお知らせを掲示する。 ○理科を中心に取り組んできた。意識して取り組むことができるように、理科や総合・生活科の単元計画に「おおむねのつくり」との関係性を明記する。 ○「スクールタクト」を利用した学習を多くの教員が実践している。「共同閲覧モード」にすると同時に自分の意見が児童同士で共有される。そのため相手に伝えようとする意識が高まったり、意見を見合うことで学びを深めたりする姿が見られた。 ○校内人材研修会を実施している。毎月、人材研修会への取り組みをまとって発表している。 ○マラソン月間やなわとび月間を実施した。また、体力テストの結果を受け、近隣校とも連携しながら、柔軟性の向上も図っていった。感染防止も考慮したため、取組みが学級ごとの実施となり、実施時間や回数もやや少なかった。 ○授業では思考を交流させる場面を多く設定し、特に自分の考えを説明できるようにした。また、協議して問題解決する活動も取り入れた。 ○各教科の学習において、OKJに取り組み、ペアで説明する・グループで考える活動をしている。異学年でのクラブ活動委員会活動では、学習用タブレットの「クラスルーム」を使って意見の交換もしている。	A	4	・限られた状況下での学年を越えた活動を評価したい。 ・マラソン、縄跳びに継続して取り組むことは精神面にも良く、向上心を養うことができると思う。 ・タブレットを活用した表現能力が高まっていると実感した。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおむねのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1	3: 65%以上	3: 65%以上	B	2		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4: 60%以上	4: 60%以上	C	0		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	1: 60%未満	1: 60%未満	D	0		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 70%以上	4: 70%以上	○毎学期末に学習カルテを使って児童が学習状況を振り返り、教師が助言を記入し、通知表とともに保護者へ渡して内容を知らせたり、指導ポイントを明確にしている。 ○単元ごとにステップ学習を行った。保護者に通知表と併せてチェックシートを配付し、算数の到達度を知らせた。	A	4	・子どもたち一人一人に合わせた学習ができていて感じる。また保護者にも算数の理解度を知らせることができるのは良いと思う。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3	3: 65%以上	3: 65%以上	B	2		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 60%以上	2: 60%以上	C	0		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1: 60%未満	1: 60%未満	D	0		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をほぐします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4: 70%以上	4: 70%以上	○生活指導で児童・生徒・あひだりに重点を置いて指導。また、学校のきまりの取組やあひだのやくそく、あいさつ運動や日々の道徳等で意識を高めるようにしている。右側通行の徹底など、安全意識を高めている。	A	5	・社会の一員としての基本の挨拶を習慣づけていくことは大切だと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3: 65%以上	3: 65%以上	B	1		
		学校生活調査(メンタルヘルステック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 60%以上	2: 60%以上	C	0		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 60%以上	4: 60%以上	D	0		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4: 70%以上	4: 70%以上	○生活指導担当の取組カードを配布し、家庭と連携して取り組んだ。また、長期休み前に、生活指導主任から望ましい生活習慣について全校児童に指導を行った。上記以外にも、保護者や個人面談でも話題に上げたりして、年間を通して、意識啓発を行っている。	A	5	・子ども一人一人の運動への取組を家庭と連携して把握することは、子どもに良い影響を及ぼすと感じる。 ・屋上を活用するなど、コロナ禍の中で運動習慣を継続させることや健康増進への取組を評価する。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3: 65%以上	3: 65%以上	B	1		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上	2: 60%以上	C	0		
		自分の心や体に興味をもち、進んで健康的な生活を送ろうとする意欲を高める。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	1: 60%未満	1: 60%未満	D	0		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4: 75%以上	4: 75%以上	○学校公開のアンケートをインターネットを使って回答していただき、そのデータを共有している。十分でなかったことを把握し、授業改善を図っている。	A	5	・OJTという手法が取り入れられてから30～40年経過したが、成果評価が低いのはなぜか。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 67%以上	3: 67%以上	B	1		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2: 60%以上	2: 60%以上	C	0		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: 60%未満	1: 60%未満	D	0		
プラン6 学校・家庭・地域が連携する体制づくり	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4: 50%以上	4: 50%以上	○令和3年度1月より学年だよりを廃止し、学校だよりと統合することにより保護者地域への情報の一元化を図り、学校だよりで確実に各学年の取組、行事等が伝えられるようになった。	A	4	・学校と地域の連携をより強めていけるよう、様々な場面で協力を惜みず取り組んでいきたい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3: 45%以上	3: 45%以上	B	2		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	1	2: 40%以上	2: 40%以上	C	0		
		相互授業参観や日常的なOJTに取り組む。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1: 40%未満	1: 40%未満	D	0		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。